

令和4年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和4年9月20日（火）13時30分～15時20分

場 所： 草津市役所4階 行政委員会室

出席委員： 三浦委員、山内委員、南委員、黒川委員、井上委員、小泉委員、
末岡委員、村田委員、吉川委員、小沢委員、廣松委員、中嶋委員、
荒木委員、光永委員、先川委員、嶷山委員（16名出席）

欠席委員： 藤田委員、塚口委員、望月委員、中嶋委員

事務局： 橋川市長、健康福祉部山本理事、健康福祉部安藤副部長、都市計画部松尾部長
建設部島田副部長、まちづくり協働部高岡部長、
健康福祉政策課岸本課長、健康福祉政策課吉川課長補佐、
健康福祉政策課西村主査、健康福祉政策課寺田主事、株式会社名豊大川氏

傍聴者： なし

次 第：

1 開会

2 委員長・副委員長の選任について

3 議事

- 1) 各政策の主な取組に係る令和3年度の実績及び令和4年度の計画について…資料1、2
- 2) 草津市健幸都市づくり基本方針（くさつガイドブック）素案について…資料3

4 閉会

○ 委員長・副委員長の選任

草津市附属機関運営規則に基づき、委員長：三浦委員・副委員長：藤田委員が選任された。

○ 議事

1) 各政策の主な取組に係る令和3年度の実績及び令和4年度の計画について

【事務局】

<資料1、2に基づき説明>

【委員長】

全体像については資料1のA3の紙にあるが、「まちの健幸づくり」「ひとの健幸づくり」「しごとの健幸づくり」と大きく3つに分けてあって、「まちの健幸づくり」はどちらかというところハード面、環境の部分である。住んでいくと自然に健康になれるようなまちを作っていくというような取組で、次の「ひとの健幸づくり」は個人個人に対するアプローチである。「しごとの健幸づくり」はいろいろな産業等で、これも環境づくりかもしれないが、企業や大学との連携ということでいろいろな取組が書かれているのだが、今資料2で説明いただいたのは昨年度の主な取組の実績と、今年度は続けてやっていくことになるので本年度の予算等についてご説明をいただいた。市民の要望というよりは意見をいただければと思っている。

【委員】

「健幸」というのが、健康と幸福の造語のように聞いているが、この「健幸」と通常の「健康」をどのように使い分けているのか。草津市全体のイメージとして、健康で幸せを目指していることは分かるが、健康であってこそ幸せという概念が起こってくると思う。

【委員長】

この言葉は6年前の策定の時からの「健幸都市」から始まっている。全国の多くの市町村がこの言葉を使って取り組んでいることもあって、草津市でもこの言葉を使ったという経緯があったように思う。幸せになるためには健康が必要であることは確かである。

【委員】

滋賀県内でも「健幸」を使っている自治体はあるのか。

【事務局】

全国ではウェルネスシティとして「健幸」を謳っている自治体はあるが、滋賀県内では聞いていない。「健幸」と「健康」の使い分けについては、草津市は「健幸」を「生きがい

もち健やかで幸せであること」としており、身体だけではなく、精神面にも社会的にも充実している広い意味での幸せという概念を含めて使っていて、他の関係する計画の中でもこの「健幸」「健幸都市」という言葉を使っている。両者の明確な使い分けのルールはないが、けん診や運動など、身体のヘルスに近い狭い意味合いで使うときは、通常の「健康」という文言を使うようにしている。

【委員長】

県内は使っていないということだが、他の都道府県の市町村では、健幸都市として使っているところがある。先ほど市長からも紹介があったが、令和3年度から草津市全体の総合計画のキャッチフレーズに「健幸創造都市」という言葉が入れられており、こちらの委員会での取組が市全体の計画にも反映されていると考えている。

【委員】

言葉が先行していて実態がついていっていないために、全体目標の60%に対して47%にしか達していないのではないかと。「健幸都市」の理想は素晴らしいと思うが、まずは地に足がついた取組として、健康というものをきちっと実現した上に、次に幸福があるようにしないといけないように思う。

【委員長】

草津市が「健幸なまち」だと思える市民の割合が伸び悩んでいることについては、事務局からの説明にもあったように、そもそも「健幸なまち」かどうかと聞かれても、市民には分かりにくいところがあるように思う。これは、前の委員会でも同じ議論があった。身体は測りやすいが、幸福度を測定するのは難しい。

【委員】

資料14ページの⑤スポーツ推進課「くさつランフェスティバル」について、私が実行委員長を務めているので少し近況だけ補足したい。1回目の開催を3年前に企画していたが、コロナにより開催を延期しており、今回10月15日にやっと開催させていただくことになった。市だけでなく民間と一緒にイベントを盛り上げていこうということで取り組んでいる。様々な参加種目を用意しており、トータルで約700名の集客を計画している。いずれはスポーツの大きなイベントとして草津市を代表するようなランニングイベントに育てていきたいと思っている。ぜひイベントにご理解とご協力をお願いしたい。

【委員長】

こういったイベントが開催されるには、それがしやすいハード面の環境が整ったことによる部分もある。これまでコロナ禍で大変であったが、開催できるようで良かったと思う。

【委員】

11 ページ、12 ページの「ひとの健幸づくり」というところで、草津市も年々高齢化が進んでいるという状況の中で、一番気になるのが、高齢者の独居率が非常に高くなっているということである。特に私の担当している地区においては 25.4%という非常に高い独居率となっており、先日、行政からもこれに関して有償ボランティアを計画していると聞いた。現在の進捗状況についてわかればお願いをしたいと思っている。

【事務局】

担当所属よりどのような提案をさせていただいているかはこの場では存じあげないが、市では、現在、障がい、高齢者、子ども、生活困窮など、様々な属性の方が利用できる居場所づくり等をはじめとした受け皿の整備を進めている。現在、具体的な部分をどのように進めるか等について議論を進めているところである。

【委員】

令和4年度の市の計画・予算の中にはそれは具体的には含まれていないという理解でよいか。

【事務局】

今年度に入ってから動き出した話なので予算としては確保できていない。

【委員】

来年度にはみてもらえるのか。

【事務局】

検討中であるが、予算に計上できるように進めるつもりである。

【委員長】

高齢者の一人暮らしは、健康上の問題にもなるし、地域包括ケアシステムでも必要などころだと思う。進捗を図ってもらえればと思う。

【委員】

先程の全体目標値である60%を達成できていない点について、何が問題であるかを調査されたのか、どのように認識されているのか。

【委員長】

定期的に市民にアンケートで調査をしていて、それがなかなか伸びないという結果が出ており、これは基本的に、市民がこの言葉を目にする機会が少ないからではないかと考えている。周知・啓発にもっと力を入れるというご意見もこの委員会で出ていたように思う。

【委員】

行政の方もそういう認識をしているのか。

【事務局】

市が考える「健幸」とは何か、目指している「健幸なまち」とは何なのかというところの周知が不足していたことが要因の一つであるという認識をしている。

【委員】

健康に関する市の所属として、健康福祉政策課と健康増進課の名前が出てきているが、その2所属だけで対応しているのか。他に関係する所属はないのか。

【事務局】

市民の健康づくりに関しては、この2所属以外の所属も幅広く所管している。例えば、高齢者に関する健康では長寿いきがい課や介護保険課、地域保健課などが所管している。また、子どもの健康であれば、子どもを所管する部署がそれぞれある。市民の健康づくり、特にヘルスを中心とした取組については、健康増進課がメインで対応しており、健康福祉政策課は地域福祉や健幸都市づくりに関する施策全般の立案なり全体調整等を所管している。

【委員】

関係部署間の連携はされているのか。健康福祉部の中だけでの話となっていないか。

【事務局】

健幸都市づくりに関しては、健康福祉部内だけで対応しているものではない。こういう外部の市民委員会を開く前にも、庁内において健幸都市づくりの幹事会や本部会議を開催しており、市の様々な政策分野を所管する部署の幹部職員が集まって会議をしている。そういう意味で、市全体で対応しているということである。

2) 草津市健幸都市づくり基本方針（くさつガイドブック）素案について

【事務局】

<資料3に基づき説明>

【委員長】

これまで「まちの健幸づくり」、「ひとの健幸づくり」、「しごとの健幸づくり」の3つに分かれていたが、それを再編成して、25ページにあるパッケージ1、パッケージ2の2つにまとめたということである。数値目標が必要であるということで、今回24ページの健康寿命の延伸と、市民意識調査における「健幸だと思ふ市民の割合」ということで2つに集約されている。

【委員】

「健幸」としていることで、「健康」と「幸福」の両方が必要なもので、率が低くなってしまふのではないかと思う。

【委員長】

設問の聞き方が変わっているのので、前回とはニュアンスが違っていると思われるが、他の委員の皆さんのご意見はどうか。

【委員】

「健幸なまち」と言われると、個人のというよりまち全体の雰囲気であるとか、どのような取組をとるところまで理解していないと答えにくいとは思いますが、あくまで自分とか家族というふうに絞った状態で答えるのであれば、答えやすくなっていると思う。

【委員】

3点ほど意見を述べさせていただきたい。

1点目は、23ページからのまちの健幸せづくりに関して、自然と健幸になるという考えがあるが、その一方で20ページのキャッチフレーズ2にあるような行動変容につながるまちづくりということで、仕掛けをしないと健幸になれないという記述がある。普通に日常生活を送っていても、それが健幸につながっていくということが重要だと思うので、考え方をうまく整理して使っただけならと思う。

2点目は運動に関する部分であるが、運動というのは「楽しさ」や「やりがい・達成感」というような部分があった方が、やりたいという気持ちにつながるのではないかと。特に、子どものうちに運動をしない（できない）と、運動を嫌いになってしまうということは多く言われていて、そうならないためにも、身体を動かすことを周囲がほめてあげる、できるとい

う体験を重ねていくことが重要だと思うので、そういった取組を考えていただければと思う。

3点目は、人権の項目であるが、どうしてもこういう書き方にはなると思うが、ここに書かれていること以外にも、ダイバーシティ（多様性）を広く受け入れるという視点を入れて記載していただければと思う。

【事務局】

意識しなくても自然と健幸になれる、例えば無意識に歩いてしまうと言ったまちづくりの視点も必要であるが、自身の健幸づくりに関しては、まずは健幸の重要性を認識し、自ら行動することも重要だと思うので、両方が重要であると考えている。ダイバーシティの視点については、記述を修正・追記する方向で検討させていただく。

【委員】

一般市民の感想として、冊子の内容が難しい。冊子を読もうという気にならないというのが正直なところである。難しい言葉がたくさんあって、市が頑張っていることがわかりにくい。

先日、北海道の自治体において、決算の内容を家電量販店のチラシ風に作成している事例を目にした。市民に関心を持ってもらうためには、このような工夫が必要ではないか。

【委員長】

現行の計画の内容と比べるとずっと柔らかくなっている。もっと取っ付きやすいようにしたらどうかということだがどうか。

【事務局】

冒頭の導入部分で、LINE のチャット形式で市民と市長の掛け合いをもってきており、かなり緩い感じで入ったつもりである。行政の作る計画の類のものは、見ていただいたら分かると思うが、どれも取っ付きにくく、一般の市民からすると難しい内容のものになっている。

本冊子に関しては、できるだけ取っ付きやすいようにということで全体的に緩く親しみやすく作成したつもりである。「健幸都市づくり」の周知・啓発に関しては、この冊子だけをもって行う訳ではないので、動画を制作したり、SNSで配信したりする際には、緩くお知らせができればよいと思っている。

そのような中で「健幸都市づくり」について特に深く学びたい人はこの冊子を使って学んでいただけたら良いかと思う。その辺をうまく使い分けて対応していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

【委員】

この冊子は、市民に配ることを想定しているのではないのか。

【事務局】

全戸配布については今のところ予定していない。

【委員】

それならば置いておくというような感じになるのか。これだけの厚さの冊子は気軽に読まないと思うので、ボリュームを見直すことはできないか。皆に見てもらわなければ意味がないので、もっと簡単なもの作成して置くようにしたほうが良いと思う。

健幸都市については、健康だけでは幸せではないので、だんだんと年齢がいった一人暮らしになり、身体は健康でも寂しいとかはあると思うので、健康よりも幅広い幸せを含んだ考え方は良いと思う。

【委員】

一般の方にお渡しするものであるので、もっと平易な形で、例えば、健康は食と運動、心の持ち方といった内容に絞って記載すればよいと思う。

【委員】

市が考える「健幸」に関して、障害のある方にとっては、少し置いてきぼりにされているような感覚があるのではないか。障害のある人でも、生きがいを持って、幸せがあつてというようなまちづくりを目指して取り組んでいただきたい。誰一人取り残さない地域の共生社会づくりを考えるとといった面を強調してほしいと思う。

それぞれ生き辛さを持った方々がたくさんおられるので、そういった方々が草津市にいたら少しずつ元気になってきた、生きる目標ができたと感じてもらえるように進めていただきたいと思う。

【委員】

この資料を見て、市の考えや取り組みもうとしていること分かったのが良かった。「健幸都市づくり」に関して市長さんと市民がわかりやすい言葉でやり取りされていて点や、〇×クイズなどもあつて楽しいものになっていると思う。47ページの市民ワークショップを通して市民の声を聞き、それを反映している点でもとても良いように思う。

【委員長】

基本方針についてはこの形を基本に、本日の意見等も踏まえて少し分かりやすくしてもらって、また皆さんに確認してもらって進めたいと思う。事務局から連絡事項等はあるか。

【事務局】

本日はいろいろ貴重なご意見を頂戴し、感謝申し上げます。基本方針の冊子のボリュームや見せ方についてご意見があったところだが、今までの基本計画の流れがあって、また我々の伝えたいことがたくさんある中で、こういう内容になっていることをご理解いただければと思う。これから市民の皆様へ情報をリリースしていく中で、どのような形が受け入れてもらいやすいかということを考えていきたいと思う。

冊子の文言等については、本日いただいたご意見を参考としながら、引き続き内容の整理に取り組んでまいりたい。今後、庁内で草津市健幸都市づくり幹事会、本部会議等に諮っていき。大きな変更等がない場合には12月頃を目途に、改めて委員の皆さんに文書にてお示しさせていただこうと考えている。その後、来年1月頃にパブリックコメントを実施し、完成したものを3月頃に開催予定の本委員会に改めて諮っていきたいと考えている。

○ 閉会

(以上)